

2023年2月、第6号

幸福の谷

公式ニュースレター

インターンシップ制度： JICA パートナーシッププログラム

幸福の谷; ニュースレター



序文

読者の皆様、コミュニティベースのプロジェクト ニュースレターの最新号をお届けできることを嬉しく思います。このニュースレター「幸福の谷」は、現場での農村開発の声を記録し、プロジェクトの活動と進捗状況を更新して、知識、アイデアおよび課題を共有するためのプラットフォームを提供することを目的としています。

この号でわかるように、私たちのプロジェクトは、チームメンバー、コミュニティパートナー、セラブッチェ校の揺るぎない献身とたゆまぬ努力のおかげで、目標の達成に向けて大きく前進し続けてきました。セラブッチェ校の若くてやる気のあるインターンの助けを借りて、私たちはシンプルながら重要な進歩を遂げました。私たちは協力することで、コミュニティに前向きな変化をもたらし、人々の生活に真の変化をもたらすことができると信じています。この機会にコミュニティパートナー、サポーター、チームメンバーの皆様に、プロジェクトの成功への揺るぎないコミットメントに感謝の意を表したいと思います。皆様のご支援がなければ、このニュースレターと私たちのプロジェクトは実現できませんでした。

今号のニュースレターをお読みいただければ幸いです。引き続きのご支援とフィードバックをお待ちしております。

ありがとうございました。
トラシ・デレク・ラ。

よろしくお願ひします、
【アビチャンドラA】
プロジェクトオフィサー



ニュースレターのハイライト

序文

インターンシップ制度の概要

農業活動

文化活動

オーラルヒストリー

地域の健康

その他の地域活動

インターン生からのメッセージ



インターンシッププログラムの概要

2023年1月3日、シェラブッチェ校の5人の学生は、インターンシッププログラムのためにバルツァムを訪れました。そこでインターンシップの重点分野が農業、健康、文化であることをプロジェクト関係者から教わり、その後、志望動機について話し合いました。今回のインターンシッププログラムへの参加に感謝し、進行中のプロジェクトとコミュニティスタディで人々を支援することにより、大きな効果をもたらすことを期待しています。

その後、ゲウオグ行政役場を表敬訪問し、Gup（地元の指導者）からの助言を受けました。また、日本の京都大学の教授とバーチャル会議を行い、一般調査について話し合いました。私たちはこの調査から効果的で信頼できるデータを得るために、調査の質問を確認し、現地の言語で調査を実施しました。

休日は地元のツェチュ（祭り）に行ったり、高齢者との会話、キヌアの脱穀、ジャガイモの植え付け、糞尿の採掘と運搬、落ち葉の収集など、バルツァムのコミュニティでの作業経験を積みました。また、ハッピー・ファーマーズ・グループがジャムン・クムン・チウオグのヤンカールにビネガー設備を建設するのを手伝い、食事を提供してもらいました。彼らは私たちと仕事の経験を共有するのに友好的で、私たちの誰もが仕事をして元気になりました。

調査票を確認した後、ゾントウン メンチャリ チウオグに行きました。調査は4日間かけて37世帯の調査を完了しました。次に、タシガンに行って市場調査を行い、店主が商品を販売する方法を学びました。調査中に人々と関わる方法を学び、私たちのコミュニケーションスキルと自信の両方を向上させることができました。。

その後、1月31日に閉会式を行い、私たちインターンがインターンシップでの経験と知識を共有するプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーション中、JICAプロジェクトメンバーはズーム会議を介して参加し、シェラブッチェ校数学科のシンリー ナムゲイ先生とバルツァムのハッピーファーマーズグループの会長は、私たちの同僚と参加しました。私たちは、村の専門家からの実務経験で報われました。

このプログラムは信じられないほどの旅であり、私たちはそれに参加できたことに感謝しています。私たちは皆さん一人一人から多くのことを学び、皆さんが行うすべてのことへの情熱と熱意に刺激を受けています。学んだ教訓を生活や仕事に適用し、コミュニティと社会にプラスの影響を与えるよう努めましょう。

目的

このインターンシッププログラムは、大学生が地域の状況や課題について理解を深めるとともに、JICAパートナーシッププログラムのメンバーが実施するフィールド調査や活動を体験する機会を提供することを目的としています。



ビジョン

バルツァム コミュニティの農業、健康、文化の現状を知ること。

ミッション

JICAプロジェクトの研究員を派遣し、バルツァムでの調査を完了し、そこから我が国の状況を知ること。

農業活動



私たちは幸運にも、JICAのプロジェクト担当者とともに、さまざまな分野の基本的な活動に参加することができました。JICAプロジェクトメンバーによると、コミュニティを理解することは、より良い農村開発にとって不可欠であるとのことでした。バルツァムのコミュニティで参加した健康、文化、農業のイベントは、私たちが予期していなかった多くの情報を提供してくれました。初めて農業関連の活動を行ったのは、2023年1月9日にナンカル・チウォグで木材／竹酢液の設置工事の基礎工事（コンクリート工事）を行った時でした。木材/竹酢設備の設置は、バルツァム地区の有機農業を促進するために行われました。1月14日、最高の現場効率でコンクリート工事を無事に終わりました。私たちは1月15日に、トラシャン村のジャガイモ農園で働き始めました。バルツァムでは、地元の人々からジャガイモを植える新たな方法を学びました。ゴンパ村では、ナラの木の葉を集める機会もありました。これらの葉は主に、今後の農業プロジェクトの肥料を準備するために使用されます。

次世代に力を与える：農業と若者の育成に関してコミュニティメンバーから学んだ教訓。



文化活動

文化活動を垣間見る

バルツァムは、トラシャン、バイナンカル、ナンカル、ジャモンクムン、ソントウン、メンチャリ、ムクタンカルの5つのチウオグで構成されています。ニュンギネ(Nyungney)を行う前に、チーズ、バター、野菜、米、薪などの調理に必要なアイテム（ドウラン）を集めます。これらのアイテムはツワ（調整メンバー）から集められ、この活動中に多くの人々が集まります。特にソントウン、メンチャリ、チウオグでは、ニュンギネが毎日連続して行われ、3日目にツェチュ（tshechu：儀式）が行われます。ツァワイ、ラマ1人を含めて合計20人から25人の修道士がいますが、これはバルツァムの他の村では異なります。

チャドル・ラカン

コミュニティ ツェチュ

ツェチュの間、多くの人々が祝福を受けに訪れます。他の村のほとんどの人が訪れ、ツォカンから祝福を受け、同時に私たちも招待されました。私たちは皆一緒に行きました。私たちは彼らのやり方で食べ物や飲み物を提供され、そこに行った後はとても嬉しかったです。その後、村人と踊り、彼らの文化を体験しました。さらに、新しい伝統的な歌や新しいダンスのステップなど、多くの重要なことを学び、高齢者と交流し、バルツァムコミュニティに関する新しい知識や情報に触れました。



ゴエンパ・ツォカン

グル・ジユクサへの文化的ハイキング

バルツァムコミュニティのグル・ジユクサへの文化的ハイキングは、地元の人々の伝統的なライフスタイル、習慣、信仰以外のものを探索するユニークな機会を提供します。緑豊かな森の中を歩くと、訪問者は美しい風景と仏教寺院やチオルテンの伝統的な建築を見ることができます。地元のガイドが同行し、グル・ジユクサに向かう途中で他にも多くのことを学ぶことができました。

ハイキングは、地元の人々とながら、彼らの文化や生活様式について学び、バルツァムコミュニティの美しさを理解するのに最適な方法でした。

バルツァムが将来の観光に大きな可能性を秘めていることがわかりました。

グル・ジユクサへ向かう途中

オーラルヒストリー

お年寄りから学ぶ

ミーム・タンデラ氏とデチェンラ氏へのインタビュー



ゾントウンから数キロ離れたジャンジャンマニに現在住んでいるミーム・タンディンラ氏とデチェンラ氏に印象的なインタビューをしました。祖父はどちらも昔は軍人として仕え、困難な状況にもかかわらず、誠実で献身的に心から奉仕したと彼らは言いました。彼らは、バルツァムに関する歴史的知識と情報を持っている高齢者でした。彼らの旅、人生、そして今の世代が以前と比べてどのように改善されたかについてインタビューしました。彼らの経験と視点に基づいて、私たち若者の前には、はるかな人生があると語りました。



彼らは、私たちが興味を探求し、スキルを磨き、国に奉仕するためには、これからもまだ何年もあることを思い出させてくれました。これらのアドバイスは、私たちが成長し発展するのに役立つ学習の機会として、失敗や過ちを受け入れることを教えてくれました。



アドバイスのほかに彼らが懸念していることのひとつは、多くの若者が海外に行っている現在の状況で起きている過疎化についてでした。親も外に出ることを勧めていますが、農業に興味を持っている人が少なくなったからです。しかし、私たち5人のインターンがこの種の活動に興味を持っていることに、二人とも感銘を受けてくれました。



“

知恵を渡す：

若者は、お年寄りのコミュニティメンバーから、コミュニティの結びつきをより強くすることを学ばなければならない

”

地域の健康管理

バルツァム病院の訪問

地域保健当局者との面会

2023年1月16日、午前9時30分頃、ゾントウンからナクツァンの病院を訪問する旅を始めました。午前10時頃に到着し、病院のスタッフが温かく迎えてくれました。私たちは病室のひとつに案内され、3人の医師が病院について多くの詳細を教えてくださいました。

バルツァム病院



保健当局とのやり取り

バルツァム病院のヘルスチームのま心からのサポートを感じました。また、バルツァの人々が医療サービスにどのように反応するかも知りました。その後、病院の環境を見に行き、医療機器について多くの知識を得た後、医師に別れを告げました。

バルツァム病院



地域の健康についての考察

バルツァムでのインターンシッププログラムの間、私たち学生は地域社会の健康の重要性について考える機会がありました。地域住民や医療専門家との交流を通じて、地域のコミュニティが直面している課題と機会をより深く理解することができました。この経験は、ヘルスケアへのアクセスがコミュニティ全体の幸福を促進する上で重要な役割を果たしており、私たちの将来の仕事で貢献できる方法を考えるよう促しました。最終的に、このプログラムは、前向きな変化を生み出す上での協働とコミュニティの関与の力を思い出させる貴重な役割を果たしました。

バルツァム病院



その他の地域活動

落ち葉回収 (Seba collection)

この地域活動では、インターン生とプロジェクトメンバーの何人かが森から乾いたオークの木の葉を集めました。私たちはコミュニティの家族に加わり、それについて学ぶだけでなく、お手伝いをしました。木の葉は土壌改良のための有機物質として、また作物生産のためのマルチとして使われました。またこの活動には、適切な樹種の特選、葉の収集に適した時期の選択、および持続可能な収集方法の確保が含まれていました。土壌の健康における有機物の重要性、天然マルチを使用する利点、環境の持続可能性のための責任ある収集慣行の重要性について学びました。この活動は、持続可能な農業における実践的な技術を開発し、農業における森林の役割をより深く理解するのに役立ちました。



糞尿作業

1月16日午前10時頃、インターン生がアタ・ジャミャンの家に家畜糞尿の肥料掘りとその運搬に行きました。インターン生の一人であるクエンザンにとっては初めての経験だったので、かなりの体力が必要でした。彼女は「一生懸命働किながら、アタ・ジャミャンから多くのことを学んだ」と話しています。

アタ・ジャミャンは、農作業と肥料の作り方について多くの知識を与えてくれました。非常に骨の折れる作業と努力の末、日暮れまでに肥料の半分しか仕上げることができませんでした。仕事の後、アタ・ジャミャンの家でおいしい夕食を食べさせてもらいました。



木材・竹酢液設備の設置

インターン生は、バルツァムのハッピーファーマーズグループのメンバーを支援する「コミュニティサービスプロジェクト」に参加し、木材と竹酢液の施設を建設しました。このプロジェクトは、持続可能な有機農業を促進し、農村コミュニティの経済成長のための解決策を開発することを目的としています。彼らは地元の人々と協力して施設を建設し、バルツァムで酢の生産に使用されている方法について学びました。このプロジェクトを通じて、インターン生はコミュニティサービスと農業で貴重な経験を積み、バルツァムコミュニティの持続可能な開発にも貢献しました。



インターン生からのメッセージ

この素晴らしい「JICAプロジェクト」という舞台で多くの経験と知識を得ることができました。この国を愛するプロジェクト スタッフや勤勉な研究者たちと一緒に働いて感じたこと、感銘を受けたことは言葉では言い尽くせません。研究に携わることで、研究の本当の意味と意義を学びました。農業、医療システム、文化の一部など、このプロジェクトでできることのできる様々な分野での経験は大変に豊富で、農場の変遷、医療サービスへのアクセス、バルツァム コミュニティの文化的慣行などを理解できます。

最後に、教育を受けていない人々に対処するために、より情熱的で理解を深めるための基本的なライフスキルが充実しています。入学の機会を与えてくれた JICA プロジェクトと、私たちに機会を与えてくれたシェラブッチェ校に感謝します。皆さんのサポートなしには成功しなかったでしょう。「日本の研究者の学習姿勢を見て感銘を受け、敬服した」という一文でメッセージを締めくりたいと思います。

ありがとうございました。

1



チャドル・テンジン
環境科学2年

2



イエシ・ザンモ
環境科学2年

これまでにこのインターンシッププログラムで学んだことを行動に移すことにとても興奮しています。私はこれまで以上に、自分の専門分野でキャリアをスタートさせたいと思っています。このプログラムで農業、健康、文化についてさらに学び、社会的スキル、ネットワーキング、自信を身につけ、実際の生活に役立ちました。これまでに学んだ知識を応用する機会を与えてくれ、自分の能力を発揮できる土台となります。したがって、すべての若者は、新しいスキルを学ぶ機会をつかまなければなりません。

最後に、私たちを受け入れてくれた JICA と シェラブッチェ校に感謝します。さらに、知識と時間を私たちと共有してくれた勤勉な研究者、従業員、チームメイトに感謝します。私はみなさんの研究と個々のメンバーが、私たちの国のためにどれほど懸命に働いたかに感銘を受けました。この素晴らしいインターンシップに改めて感謝します。みなさんとチームの成功をお祈りします。



JICAインターンシップに参加して、日々の活動から多くのことを学びました。私にとっては、まったく新しい経験と知識でした。インターンシップに参加し、知識を深める機会を与えてくれたすべての人々に今でも感謝しています。バルツァムの人々との活動に初めて参加したとき、農村コミュニティがどのように機能し、コミュニティとしてどのように相互依存しているかについてのアイデアと知識を得ました。それは私が育ったコミュニティとはまったく異なり、ロコエ時代の歌や踊りなど、今でも非常に興味深く実践されている豊かな文化にとっても魅了されました。ロコエがすべての仕事を置き去りにしている間、村人がどのように助けて集まったかにも驚きました。家族の団らんのように感じました。

私を得た驚くべき知識の1つは、「ハッピー ファーマーズ」などの農業およびコミュニティ ファーミング チームに関するものです。掘って肥料を作る方法について、たくさんのアイデアをもらいました。ブータンの農家が、伝統的で実質的な農業を実践するだけでなく、近代的で商業的な農業にどのように移行しているかについて知り、私はとてもうれしく思いました。私が思っていたよりも多くの農業実践の発展を見てきました。バルツァムに来てから有機農業に興味を持つようになりました。農家が有機農業をどのように導いているかということについて、非常に感銘を受けたからです。

また、バルツァム病院などの農村地域での医療部門の発展も、目の当たりにしました。個人的には、バルツァム病院は設備が整っていると感じました。最新の医療施設だけでなく、私たちの伝統的な医療施設も備えていました。また、医療機器がどのように機能するか、および医療従事者のための機器のリスクについても、多くの知識を得ました。

しかし、農村部の医療サービスのマイナス面は、農村部の人々の考え方でした。彼らは地元の伝統的な治療のみを受け、現代の医療サービスを無視するという、世代の連鎖をたどってきたからです。ですから、私はそのことを危惧するのみならず、バルツァム病院で働くヘルス・ワーカーのことも気にかかりました。

バルツァムのことを知って、豊かな物語が詰まった場所だと感じました。バルツァムの隅々には、「バルツァム」などの場所の名前からモニュメントまで、独自の物語があります。バルツァムでの滞在中に、チャン ジャン マニやグル ジュクサを訪れたりして、多くの文化的および宗教的知識を得ることができました。また、石などの自然の要素がいかに神聖であるかを理解しました。また、チャドル像について語られた話など、オーラル ヒストリーの信頼性も目撃しています。

アンケートの準備をしているうちに、聴衆のニーズに合った質問をすることの難しさを実感しました。聴衆に質問するには、聴衆について多くの理解が必要であり、デリケートな問題を扱う質問には特に注意する必要があることを理解しました。

村人、特に高齢者への調査では、調査に関する回答を得ただけでなく、彼らが持っている国の歴史についての知識も得ることができたので、投入したすべての労力と時間に値する多くの知識を得ました。この調査は、田舎の場所、人々、彼らのライフスタイルなどについて、より多くの知識を得るきっかけとなった活動の1つです。

しかし、調査を通じて、水不足など多くの分野で村人が直面している困難も知りました。また、村人とコミュニケーションをとる機会を得たことで、社会的絆を築くだけでなく、コミュニケーション スキルを向上させることができました。

3



クンザン・チョーデン
英語学科2年



私は当初から、このJICAインターンシッププログラムに参加することに非常に熱心でした。たった1ヶ月でしたが、健康・農業・バルツァムの文化に関する膨大な量の情報をうることができました。インターンシップを通して、対人コミュニケーションと人間関係構築の新しいスキルを身につけました。自己紹介の仕方、自分の好きなこと、経験、スキルについて話す方法、そして各人をよりよく理解するための質問の仕方を学びました。

また、私たちの文化とはかけ離れた新しいバルツァムの文化についても学びました。バルツァムのコミュニティは、親切で勤勉な労働者でもありました。私たちは調査方法についても学び、プロジェクトの献身的で親切な関係者と協力することに興奮しました。多くの課題と困難がありましたが、調査を予定どおりに完了し、良い結果を得ることができました。

JICA プロジェクトとシェラブッチェ校が、「研究を通して学ぶ」素晴らしい機会を与えてくれたことに感謝したいと思います。私はすべての若者に、近い将来、この種のプログラムに参加するよう強く勧めます。最後に、バルツァムコミュニティのメンバーのサポートと、インターンの友人たちの支援に感謝の意を表したいと思います。皆様のおかげで、私はバルツァムで充実した日々を送ることができました。

ありがとうございます。



4

チミ・ワンチュク
BSc環境科学2年



5



学習と応用は、手を取り合って進めなければなりません。そうでなければ、学習は無駄になります。JICA プロジェクトのメンバーの助けを借りてバルツァムで完了したインターンシッププログラムは、信じられないほど実り多く、成功を収めました。多くの障害に直面しながらも、私は多くの研究関連の能力とアイデアを構築してきました。これらは、将来の研究に不可欠であると信じています。

また、意思決定者は、コミュニティの成長をもたらすために、コミュニティの立場を十分に認識しておくことが重要であると考えました。私は健康だけでなく、多くの文化や伝統についてたくさんの知識を得ました。

最後になりましたが、この素晴らしい機会を与えてくださったJICAプロジェクトのスタッフ、シェラブッチェ校の経営陣、JICAプロジェクトのスタッフに感謝の意を表したいと思います。最後に、インターンシップパートナーのサポートに感謝します。

ソナム・ベンジョール
環境科学科2年



ご閲読ありがとうございました

幸福の谷

ニュースレター



第6号



JICA パートナーシップ・プログラム：

ブータン国東部タシガン県における大学-社会連携による地域づくりに関する人材育成開発支援



Abi Chandra Acharya (AB Panda) プロジェクト オフィサー

全著作権所有。このニュースレターのいかなる部分も、発行者の許可なしに、いかなる形式でも複製することはできません。